鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第36号　H20．10．29

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

おじさんの後悔

進路指導課　秋元達也

「希望」とは概念であり、学問的には哲学の対象にしかならないと思っていました。しかしそれを実体ととらえ、社会学の領域で研究しようという試みが始まりました。東京大学の社会科学研究室だったと思いますが、個人の希望の在り様が社会の活性化に大きく影響しているという仮定の下の研究だそうで、現在は「希望」を数値として捉える作業が主なテーマとなっているとか。言われてみれば「なるほど」と思いますが、言われるまでは思いもつかなかった発想です。

僕たちは大学を選ぶ際、そこに何学部があり、その中の何学科で○○の研究をしているから、その学科に行けばこのような自己実現が図れるから、などという既成のものを基準として選びます。それはそれで全く正しいことであり、第一基準は間違いなくこのことであるべきなのですが、大学とは既成の価値観だけでは止まらないところです。常に未知に向かって進歩し続けています。つまり、そこで学ぶ者が「やりたい」「研究したい」と思った研究が簡単に(社会的道義に背くものでない限り)実現できる世界でもあるのです。そのことは今年のノーベル物理学・化学賞受賞内容からもはっきり読み取れます。

社会人である僕は、そんな世界へこれから入る君たちをとても羨ましく思います。教師になるという目標を抱いてはいたものの、自分で勝手に可能性の限界を設定してしまった結果、今となっては、あれをやっていたらこうだったのに・・・、とか、大学時代に戻してくれればこれをやるのに・・・という思いでいっぱいなのです。「たら・れば」だけで語られる人生ほどつまらないものはないですよね。

この、きわめて平凡なおじさんの後悔を他山の石の一つにしてほしいわけです。先に書いた大学の可能性を自らに生かすためには、入学後の問題意識や知的好奇心がとても大切になります。そして入学後にしっかりとその意識や好奇心を持つためには、入学以前、つまり今学んでいる一つ一つの内容を単に受験勉強の対象として捉えるだけではなく、そこで語られる真理や科学の本質をしっかりと見極め、それらが世界のどの部分とどのようにつながっているかということを見定めておくことが必要でしょう。鶴丸の授業内容は確かに高度で難易度も高いですが、その分、学問としてはより本物であると考えています。日々目にする文章や、提示される解法の中に、確たる真理や本質が存在しているのです。特に一年生には、鶴丸に合格したことのみに満足して以降は受動的になるのではなく、より創造的に挑戦し続けてほしいなあ。

今は大学に入るための努力に懸命の君たちですが、入った後は、こんなに素晴らしい世界が待っている、ということも知っておいてください。入試はそのための資格審査だと考えれば、積極的にならざるを得ないはず。漢文で書けば「敢不為攻乎。」というわけです。いわゆる「難関大」と言われている大学は、その意味では極めて夢に満ち溢れた大学なのです。だからこそ志願者が多く集まり、従って難易度も上がります。宝の原石である君たちには、ぜひそのような場で磨かれ、新たな光で未来を照らしてほしい。鶴丸で学ぶ君たちにそのような確信と期待を持つからこそ、僕たちは「現状で妥協せず、より高いレベルを目指せ」と日々言い続けているのです。

伝えたいものは　伝わりましたか
～文化祭～

国語科　福寿　辰

十月十一日。文化祭当日は晴天だった。屋外での催しもあるため、生徒会も天候には気を揉んでいた。よって、朝、彼らが見せたうれしそうな顔は印象的だった。学校長の晴れ男説にまた一つの根拠が加えられた日でもあった。

ステージ部門は、文化系部活動が中心となって、レベルの高い舞台発表を展開した。鶴丸の文化的な水準を示すかのようで、観覧する側として、感心するだけでなく誇らしい気持ちにもさせられた。その中で、二年生による二つのクラスステージは、一つの基準を完成させたように思う。この取り組みは始まって三年目であるが、毎年新たな創意工夫がなされ、文化祭の中心になりつつあるように感じる。今後、鶴丸生がどのような文化祭を創っていくのか、現一年生の生徒・生徒会のアイディアと実行力に期待したい。新たな形を構築するくらいの気持ちで臨んでほしいものだ。

展示については、まだまだ向上の余地があるとの声も聞かれるが、映像作品など、クラス全体での協力体制が感じられるものが多かったのはよかったと思う。テーマとしては、シラス緑化基盤の実物を展示して、環境問題を扱ったクラスが印象深い。シラスや火山灰は鹿児島にとっては邪魔物でしかなかったが、性能の安定したコンクリートや環境問題を軽減するシラスブロックの原料として注目を集めている。鹿児島の独自の産業ともなり得るものであるので、鹿児島の高校生として、今後も着目すべきテーマであろう。

今回、文化祭係を担当して思うことは、裏方の人々の尽力の大きさだ。初夏のころから、各部門で生徒・職員の責任者が動き始める。

会場設営についても、クラス・部活動の生徒が一生懸命汗を流してくれた。完成されたものを享受するときに、そこに至るまでどれだけの人間の努力があったのかは気付きがたい。しかし鶴丸生としてそこに目を向けられるようになってほしい。それが素敵な大人への第一歩であるようにも思えるからだ。まさに無私の想いで行事の成功のために労を厭わなかった生徒会や、クラス・部活動の生徒を支えてくださった職員の方方に心から感謝したい。

一世代も昔になるが、自分自身も鶴丸高校の文化祭を体験した。忘れがたい思い出はいくつもある。私は食物バザーでうどんを茹でた（学食の道具を借りて）。化学部は中庭に火山をつくり火を噴かせていた。これには応援団が火山にエールを送るという、今思うと奇妙なものがセットになっていた。吹奏楽部の奏でるマンボ（甲南高校が野球の応援で用いている）には、全校生徒で声を上げて応えていた（全員でジャンプして応えたこともあったが、当然すぐに禁止された）。理科系の部活のどこかが、校庭でビニール袋の気球を浮かせたこともあった。―今回の文化祭も、生徒の皆にとって思い出として残るものがあったなら喜ばしいことだ。そして、これからの文化祭を創る生徒たちには、今回のものよりも遙かに素晴らしいものを目指してほしい。鶴丸の文化祭はまだまだ未完成だ。

学年PTA・進路講演会

10月20日（月）、実力考査1日目の午後に1・2年の学年PTAが開催された。

今年度全体会では、ベネッセコーポレーション高校事業部長の山河健二氏をお招きして「羽ばたけ鶴丸高校～子ども達が自分を大切に生きるために～」と題しての講話をいただいた。約80分という限られた時間ではあったが、詳しい資料に加え、先生自らの高校時代の体験談を交えながらの講話は、親としてどうあるべきか、どういう一言が効果的かなどについて、いいアドバイスになったようだ。また学校からは、携帯電話のフィルタリング機能設定についてのお願いと、夜9時以降は携帯電話の電源を切ることについての説明があった。

その後、1年生は文理選択と教科や科目の選択、2年生は大学入試に向けての学習のあり方を中心に学級PTAが開かれた。

実りの秋、是非親子で人生や将来について語らいの時間を持ち、学びを深め、進路目標達成に向け「自分を大切にしながら」毎日を大切に過ごしてほしいと思います。

後期生徒総会

10月22日（水）の7限目に後期生徒総会・立会演説会が行われた。立会演説会では、立候補者がそれぞれの生徒会活動に対する思いを熱く語り、他の生徒たちも立候補者の言葉に真剣に耳を傾けていた。

後期生徒総会では、前期生徒会活動報告・前期会計中間決算報告があり、その後特別議題である「清掃について」の話し合いが行われた。生徒たちからは清掃時間についての要望等が出された。

最後に清掃委員よりゴミの分別について、あまりよい状態ではないという現況が報告され、弁当殻等の各家庭への持ち帰りの推進等、校内のゴミ問題解決にむけての具体的な提案があった。

質の高い清掃を行ない、素晴らしい学習環境の中で皆が学ぶために自分が出来ることをしっかりと考え、行動していこう。

１１月の行事予定

11月			
1	土	悠学講座，先輩による学部説明会(1年) 3年進研マーク，2年リスニング試行テスト	「かごしまの教育」県民週間
2	日	進研(1・2年記述，3年マーク)	
3	月	文化の日	
4	火	文化講演会	
5	水		
6	木	3年実力考査時間割発表 ロードレース大会前健康診断(15:30～)	
7	金	教科指導研究会	
8	土		
9	日		
10	月	全校朝会 学校安全の日	
11	火		
12	水		
13	木	**3年実力考査（1日目）**	
14	金	**3年実力考査（2日目），ロードレース大会** 第45回県生活指導研究協議会研究大会	
15	土	悠学講座　スクールカウンセリング④	
16	日	第2回英検二次	
17	月	学年朝会 集団読書(1・2年)	教育相談週間
18	火		
19	水		
20	木		
21	金	卒業考査・中間考査時間割発表 中掃除　全英連英語研究大会	
22	土	全英連英語研究大会	
23	日	勤労感謝の日	
24	月	振替休日	
25	火		
26	水		
27	木	月の授業	
28	金	**卒業考査（1日目）**	
29	土		
30	日		